

「森林の多面的機能」
解説シリーズ

第30回 森林の芸術機能

森林管理研究領域 高山 範理

森林は絵画などの芸術の題材や、写生などの美術活動をおこなう場所として、また様々な芸術祭やコンサートの会場などになるなど芸術活動との深い関わりがあります。今回は森林の持つ多面的機能の中でも、特に芸術的な要素に関わる芸術機能（(1)芸術的題材、(2)芸術活動の場）について解説します。

森林の芸術機能とは

長い間農山村社会の中で暮らしてきた私たち日本人は、原体験として森林と接した経験を持っています。そのため、森林は私たちの自然観や、感性、思考、思想などの、私たちの「こころ」のあらゆる面に多大な影響を及ぼしています。森林の芸術機能とは、このような森林が直接「こころ」に問いかけ、人々に感動を与えることで美的題材として請求する機能や、森林の空間が音楽・芸術活動をおこなう場所として芸術的なモチベーションを高揚させる機能のことを意味します。

芸術的題材としての森林

朝靄や夕暮れ時のような1日の変化や、新緑や紅葉、また雪景など四季折々に森林が見せる表情はいつも豊かであり、芸術的題材としての魅力に事欠きません。そのためか、洋の東西を問わず、森林は昔から風景画の題材として多く取りあげられています。

ヨーロッパでは古くから風景画の主題として人気のあるトピックですが、18世紀には、画題としてだけでなく、自宅の庭園と外部との境界に掘割を設けた隠壁を用い、借景として庭園内に外部の森林の風景を取り込むことに成功しています。

一方、わが国でも多数の事例があります。たとえば山水画では、雪舟らにより、森林は墨の濃淡や微妙な筆の動きで雄大な山河を構成する主題の一つとして描かれています。近年でも、東山魁夷によって、ともすると無機質に見えてしまう人工林ですら、文化・芸術的な美しさが見出され、神秘的な絵画の主題として取りあげられています。また、絵画だけでなく、昨今の森林風景の撮影を趣味とするアマチュアカメラマンの著しい増加からも、森林の美しさが改めて評価されていることが確認でき、古今を問わない森林の芸術的題材としての魅力が窺い知れます。

芸術活動の場としての森林

森林は芸術活動の場としても活用されています。森林内での写生や、落葉や折れた枝などで木工製作をおこなうといった伝統文化を生かした活動だけでなく、音楽家を招聘しての「森のコンサート」や海外のアーティストを含むプロの芸術家による「森のアートフェスティバル」などのイベントの会場としても活用される機会が増えています。これは芸術活動をおこなう場所として、芸術的モチベーションを高揚させるという森林の機能が、わが国でもようやく認識されつつあることを意味しています。また、芸術の目的の一つに芸術を体感することによって多くの感性豊かな人を育てるということがありますが、その点、森林内での芸術活動は情操教育的な効果も十分に見込めるといってもよいでしょう。

おわりに

以上、森林の芸術機能についてふれてきましたが、この機能は日本人の精神・文化に関わる機能、すなわち日本人の「こころ」に関わる機能の一つです。そのため森林の持つ他の機能と異なり、環境経済学的手法などを用いた貨幣的な評価や説明が難しいといわれています。森林にはこのように定量化・数値化して分析できない側面があります。そのような性質があるゆえに、森林はいつの時代にも、私達にインスピレーションや深い感動を与えてくれるのかも知れません。国内の美しい森林の風景を創出・保全するためにも、今後は森林と「こころ」の関係を解明する研究の進展が望まれます。



魁夷に愛された北山杉の風景（撮影：山本清龍）
森林の美しさは時に人に感銘を与えるときがある